

# 地先漁場管理・資源活用事業

## (要約)

仲村 俊毅・桐原 慎二

### はじめに

本事業は、平成11、12年度に陸奥湾、日本海、津軽海峡西部を対象に、「緊急地域雇用対策事業」の一環として実施された「藻場・水産資源マップ作成事業」の後継事業であり、青森県沿岸の底質、藻場の分布、アワビ、ウニ、サザエ、ホッキガイ、ナマコ等の定着性資源の状況を把握するとともに、それを基に漁場管理・資源活用指針を作成、指導を行うこととしている。平成14年度は六ヶ所村から階上町に至る太平洋沿岸において、「藻場・水産資源マップ作成調査」を行うとともに、指針作成の準備にあたった。

### 方法

海岸線沿いに約500m間隔で調査線を設け、各調査線毎に原則として水深2.5、5、10、15mの4地点を調査地点としたが、海底地形に応じ削除している。

また、磯根資源を対象とした増殖場の調査を追加しており、総調査地点数は635地点となった。

調査は各調査地点において、GPS位置測定器により緯度、経度を記録。潜水により海底の様子を写真撮影するとともに、おおよそ半径5mの海底を目視観察により岩盤、転石、礫、砂、泥等の被度を測定した。底質については浮泥がみられた場合はその厚さを、砂泥場では鉄筋を差し込んで深さ1m以内の範囲内で砂泥厚を測定、さらに約

表 漁業協同組合ごとの調査線及び調査地点の数

市町村名	漁業協同組合名	調査線数	調査地点数
六ヶ所村	泊	19	69
	六ヶ所村海水	28	84
	六ヶ所村	2	6
三沢市	三沢市	45	135
百石町	百石町	15	51
八戸市	市川	5	15
	はちのへ	5	15
	八戸鮫浦	6	30
	八戸市南浜	23	107
階上町	階上	27	123
計		175	635

50gを採取して粒度組成を、約5gを採取し110℃、13時間加熱乾燥後、600℃で2.5時間加熱により強熱減量を測定した。

海藻(草)類については10%以上の被度の認められた種について25cm四方の枠で1枠を採取し、湿重量を求め、コンブ目、ヒバマタ目植物については個体数をカウントした。またコンブ目植物については個体毎に葉長、葉幅、重量等を測定した。

底生生物については1m四方の枠で2枠分を採取し、種毎に個体数と湿重量を求めた。また、アワビ、キタムラサキウニ、エゾバフンウニ、ホッキガイ等の主要な出現種については個体毎に殻長、殻径、腕長、重量等を測定した。

### 結果

調査は表に示した5市町村、10漁業協同組合の地先漁場で実施、各調査地点の海底の状況の画像及び主要な海藻(草)類や底生生物の分布状況を示した泡グラフ等を各漁業協同組合毎にCD-ROMにまとめ、関係機関に配布した。

発表誌：藻場・水産資源マップ(太平洋編、CD-ROM) 青森県水産増殖センター 平成14年10月